

第647号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2023年2月15日
発行責任者 喬木村公民館長 徹
市瀬 公民館編集部 長 志
編集責任者 仲田 久
印刷 龍共印刷株式会社

あなたの地域・家庭はどう?

ほんやり(どんど焼き)や節分について聞いてみると、色々な話がきけました。



上平のほんやり

どんど焼き/ほんやり

【富田のどんど焼き】

一月八日、三年ぶりのどんど焼きが行われた。コロナ禍で近所に住んでいてもなかなか会わなかった人とも久しぶりに顔を見て話ができ

た。どんど焼きは場所が違えば色々違いがあるようだ。私の住む富田は、準備を大人が行うという珍しい地区だ。生まれ育ったところで

は、子どもたちが主になって飾りを集め、大人の手を借りながらだっただが竹を切り出したり運んだりしていた。富田で生まれ育った人に聞くと、理由はわからないが昔から子どもは準備をしなかつたらしい。

また、年配の方によると、昔は作ったやぐらを夜のうちに他の地区の人に燃やされるといふようなこともあったらしく、大事なやぐらを燃やされないように番をして

守つたのだという。やぐらの頂部には幣束を飾る。幣束や、書き初めの紙が燃えて高く舞い上がる

と縁起が良い、字が上手くなると言われている、上手く燃え尽きながら空に昇っていくと皆が歓声を上げて見守っている様子も楽しい。

どんど焼きでは熾でお餅を焼いて食べて無病息災を祈ったり、炭を持って帰って火伏の願掛けをする。昔は、掘り炬燵に入れるために炭を持ち帰る人もいたらしい。

子どもたちが保育園に通っている時には「ほんやり様」と言われて歌も歌っていたのを思い出す。生まれ育ったところではまた全然違うので、各地に同じような行事があるのにそれぞれに違って興味深い。

棕鳩十ものがたり 80

「棕鳩十全集15」掲載作品「ハブとたたかう島」のおもしろさ

棕鳩十記念館・記念図書館長 菅沼利光

作品の舞台は、奄美群島の中心をなす島、奄美大島。ハブを調べにやってきた「わたし」が、役場の若い青年の案内で、ハブの話聞き歩くという筋立てになっている。

奄美群島に二十万匹もいるだろうというハブ。それは、奄美群島全体の人間と同じ数なのです。ハブは、筋肉をくさらせる毒をもち、かま

た。命を落とすか、障がい者になるかを覚悟しなくてはならないほど、恐ろしい毒へびです。

ハブのタマゴを小鳥のタマゴと間違えて、ふところに入れて持ち帰ろうとした少年が、タマゴからかえったばかりのハブに胸をかまれて、亡くなってしまう話。



棕鳩十全集15 「ハブとたたかう島」挿絵

このような話を読む中で、読者は、ハブの被害から人々を救うすべはないのだろうか、と

たたかひながら生きる「人間の強さ」などに気づかされる作品です。

「ハブをたいじするいい方法なんて、えらい学者も、まだ、考えつかんようですなあ。大むかしの人間と同じように、ぼうきれば本持つてハブとたたかう、ぼうきれば本で、ハブから命を守つていのですぜ。」という描写にいきつき、何ともやるせない思いになります。

ハブの恐怖におびえながらも、たくましく生きる人々と描かれたハブの生態。そこから、「命の尊さ」やハブとたたかひながら生きる「人間の強さ」などに気づかされる作品です。

【私の家のどんど焼き】

昔は二月七日にどんど焼きをしていました。朝どんど焼きで焼いてきたお餅を七草粥の中に入れて、お年取りに食べるものと同じ野菜等を養の目に切つたお汁をかけて食べていました。

昔と今では違う? ほんやり(どんど焼き)

・本体の他に「おどし」という小さいほんやりを作つて、先に火をつけて「もう火がついたぞ」とおどしをかけた。そして、焦つて火をつけていくのを見ながらゆっくりに火をつけた。

・個人用のほんやりを作っている人もいた。

・「つくね焼き」という、つくねで焼くほんやりもあった。

・ほんやりは子どもだけの行事だった。

・現在、昔から続くもの、二日の書初めの失敗作、

節分

字がうまくなるようにと燃やした。するめやフランクフルト、マッシュロ等餅以外も焼いて、

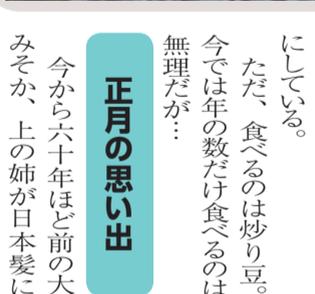
・歌「ほんやりほーほー餅持つて飛んで来い。ほんやりほーほー早くこんと焼いちゃうぞ」

・「やんやーやんやー」という掛け声をかける。

・年男女が火をつける。火をつける前に花火を打ち上げる(最近始めた)

・お餅のあとにはみかんを焼く。

・火がおきになるまで、お酒を飲みながらつまみを食べる。



ほんやりで焼いた餅

豆まき以外にやっておくこと

「蟹柁(かにかや)」と紙に書いて、玄関等の出入りに貼る

・魔除け厄除けの意味で、柁を門に置く。(柁にいわしの頭をつけて門を置いたり、髪の毛やいわしの頭を玄関で焼くこともあった)

・豆をまいて回る後ろを「ごもつともごもつとも」とすりごぎを持つてついていく。

・豆まき後は、歳の数だけ豆を食べる。

・適当に掴んだ数が、年齢と同じだと縁起がいい。

正月の思い出

今から六十年ほど前の大みそか、上の姉が日本髪にしていた。新年に着物を着るためだと思いが、高い枕で寝ていた。

二日は買い初めで暗いうちに町へ出掛けた。阿島の町は賑やかで明るかった。店の前には火が焚かれ暖かかった。だいたい食料品を買った。各店ではお年賀として、店の名人りの器や、バケツ、灰

七日はほんやりで小学生が中心だった。大人が手伝う事はなく、子供たちだけで作った。今の様に大きくなく、竹、松などを組んで藁を入れ、周りを囲んだ。あまり飾りはなかった。朝、子供たちだけで火をつけた。のんびりした時代だった。



燃え上がるほんやり

あの時

「今役立つことは将来役には立たない。今役立たないことは将来役立つ可能性がある。」先日、机の片づけをしていてメモ書きを見つけた。私は心に引っかけた言葉やメモしておくことがある。いつ書いたか、誰の言葉だったかは覚えていないが、この言葉と出会った時、「その通りだ」と感じたからだと思う。将来役立つことを勉強しておく、経験しておくという一見効率的だと思われる考え方に疑問を感じていたから

だ。今、情報化が急速に進んでいる。パソコンやタブレットを使って様々な情報を得たり、情報を処理したりすることは当たり前になった。だからと言ってそのノウハウを先行学習させておくことが、果たして本当に将来役立つのだろうか。ものの見方や考え方を、それを支える豊かな信念・実践を伴う確かな信念・。そういうものがしっかりとあつてこそ、情報機器を使いこなすスキルは生きると思うのだ。

必要に迫られればスキルは後からでもある程度身につけられる。しかし、それを支えるベースは長い年月をかけて築き上げていくしかない。身につけるべき一番大事なことは、学ぶ意欲や学び続ける意思の強さだと私は思う。(館長)

令和4年度

第三十五回 椋鳩十賞  
読書感想文コンクール

椋鳩十賞  
(一般の部)



阿智村 武井李奈  
ポプラ社

心に灯をともしること

「不器用でも良い。」

読み終えた時、正彦に諭されるような気持ちになった。正彦の抱える悩み、ジレンマを運命の出会い、運命の書がヒントを与え、心の変化を生む。心の変化は、自らの弱さを認め、他人を受け入れる心の成長へと繋がっている。このことは私自身にとって、過去の自分を受け入れることや、今日を生きるヒントにもなった。

「にせものの英雄」  
将となり、正彦自身プレーキのかけ方が分からなくなっている。しかし、小学六年生の担任の市瀬先生は「やっかい者の正彦」とレッテルを貼って関わるのではなく、生徒として関わったことで、正彦の心のトゲが取れていくように感じ、私自身の小学校での体験を思い出した。小学五年生当時、私は担任が好きになれなかった。理由は決まり事が多く、考え方が古いと感じたからだ。しかし、先生は根気良く、見捨てず関わってくれた。次第に、私は決まり事の意味を理解し、教師を目

指すまでになった。今では、子どもとの向き合い方のお手本としている。作品でも、正彦に対し市瀬先生は「ハイジ」の本を貸した。正彦に期待を寄せ、それに答えるように正彦は「素直な心」の大切さ、謙虚な姿勢を学んでいる。私は、人と関わる上でも、市瀬先生のように、人を色眼鏡で見ず心を寄せて関わりたいと考えた。

また、中学時代には、ジイマと正彦は二人で自然を歩きまわりくらしている。思春期の正彦にとって、悪友と距離をとり、心の興奮や不安を静めたことは、普段気付けなかったことに気付くチャンスになった。昨今、コロナ禍であるために、毎日感染者数などの不安を煽るような情報を目にする。知らず知らずのうちにストレスになつているに違いない。たまには、正彦のように情報を遮断して、自然と関わってみようと思った。心のゆとりを持つために今の状況から離

れ、自然に身も心も任せることは、環境豊かな長野県民の特権であるし、五感をフルに使って感じることで、もっと地球や自然への関心が高まると考えた。

さらに、正彦にとって正木先生との出会いは、正彦の心のわだかまりを取り払い、ものごとを広く公平に見ることの大切さに繋がった。正木先生は正彦の不器用さを受け止め、やさしさの輪の中に入れた。正木先生を通じて本や哲学に触れたことで思考の柔軟性が育まれた。それは、子どもたちと学問という素材を用い、心を育て、心に灯をともし続けるヒントを与えたからだと思ふ。私は制限の多い今だからこそ、本を通じて制限のない心の旅をしてみる重要性を感じた。

主人公の人間味感じる不器用さも愛し、自分自身の不器用さも愛し、子どもを丸ごと受け止めることのできる教師になりたいと思つてい

優秀賞  
(小学校1・2年の部)



大切な友だち  
「かものゆうじよう」  
千曲市立五加小学校二年 理論社  
中村 緒仁

わたしは、この本を読んで、二羽のかもは、大切な友だち同しなのかなと思

います。わたしにもそんなふうにはげましてくれる友だちがいます。わたしがこまっていたときに声をかけてくれる友だちです。わたしは、プールがが手でした。なぜかという、わたしは、はじめは頭までもぐることができなかったからです。それにうくこともできませんでした。でも、バディーを組んだ友だちが、「だいじょうぶだよ。」

「いつかできるようなになるよ。」  
と言ってくれたので、元気が出ました。「できるまでがんばろう。」  
という気持ちになりました。友だちとがんばった

きているから、こわい気持ちも九十九パーセントあるけれど、のこりの一パーセントのゆう気の気持ちで、たすけに行きます。たすけに行つたかも同じ気持ちだつたと思います。

わたしは、三きちさんが、かもおいかけないで、ずっと見ていてふしぎでした。でも、それは、かもの友だちのきずなに心をうたれたのかもかもしれません。三きちさんもやさしい人なのかと思います。

わたしにとって友だちは、やさしかったり、あそんでくれたりする大切な人たちです。わたしは、「かものゆうじよう」を読んで、友だちを、もっと、もっと大切にしようと思ひました。「かもさん、ありがとう。がんばって生きてね。わたしもがんばるね。」

喬木俳句会

新春句会詠草

下校の子ズボン濡らして雪遊び  
湯けむりに吐く息揺らぐ寒の入り

待ちわびて光ひとすじ凍空に  
オンライン遠くの子等と初笑ひ

年明けの仏間に香る白き梅  
父唄ぶ友と語りし冬の暮れ

青春の思ひ出のせて賀状来る  
一月にはころぶ梅や寒に堪へ

木下 瑞恵

矢澤恵美子

松島みのり

宮島 高枝

元旦や万の神に願ひ込め  
ウクライナからロシア撤退初夢に

根深汁香る厨よ吾の城  
我が庭に遊び啄む初雀

冬寂ぶる主なき寺の大銀杏  
こもこもの想ひのありて初鏡

遠き春父は語りし友の句を  
春浅し「小諸なる」歌口遊み

介護士の歩の休みなく去年今年  
初刷りに希望の言葉さがしをり

百歳や初夢の友若かりし  
気骨あり優しき深き寒見舞ひ

西元くにこ

市橋 ヨリ

松葉 孝子

吉川てる子

村山たか子

原 美恵子

優秀賞  
(小学校3・4年の部)



あきらめない片足すずめ  
「片足の母スズメ」  
あすなる書房  
飯田市立丸山小学校四年 本間千晴

わたしが「片足の母すずめ」を読んで心にこたえたことは、どんなに不幸がおとずれてもあきらめないすずめのすばらしさです。

母すずめは、最初の巣を作つてたまごを生みましたが鳥取りへびにそのたまごを食べられてしまいました。母すずめは、悲しく鳴いていました。でも母すずめは、二回目の巣を作りました。けれど、また巣を失つてしまいました。そのような不幸にあつてもなお母すずめは、三回目の巣を作りました。そしてたまごを生み、

きているから、こわい気持ちも九十九パーセントあるけれど、のこりの一パーセントのゆう気の気持ちで、たすけに行きます。たすけに行つたかも同じ気持ちだつたと思います。

皆さんからのお話を募集します！

2月3日の節分。今年はどんな豆を投げましたか？  
あなたの家の節分について、QRコードから教えてください。  
節分にまつわるお話もお待ちしています😊

- 節分で投げる豆は何豆？  
①煎り大豆 ②落花生 ③その他

回答は右のQRコードから➡



- 我が家の節分にまつわる話  
節分エピソードなどなど・・・

回答は右のQRコードから➡



3月卓球大会中止のお知らせ

3月に予定していた村民卓球大会は、大会1ヶ月前時点で感染警戒レベル4であり、十分な感染対策ができないため中止といたします。

編集後記

実家も昔ながらのしきたりがあるが、嫁に来た家にもまた違ったしきたりがある。年越しと正月のお膳についてはとても興味深く大変であるが受け継いで行っている。

神棚と床の間と仏さまに供えるのだが、年越しのお膳は炊き立ての白飯と雑煮用に作った汁、イワシ、元旦のお膳はお雑煮とおせち、二日のお膳はすり初めなのどとろご飯と汁。ここのうなると嫁はゆっくりできないのだが、残っていたいしきたりと思ひ、毎年供えて、手を合わせている。